資料3

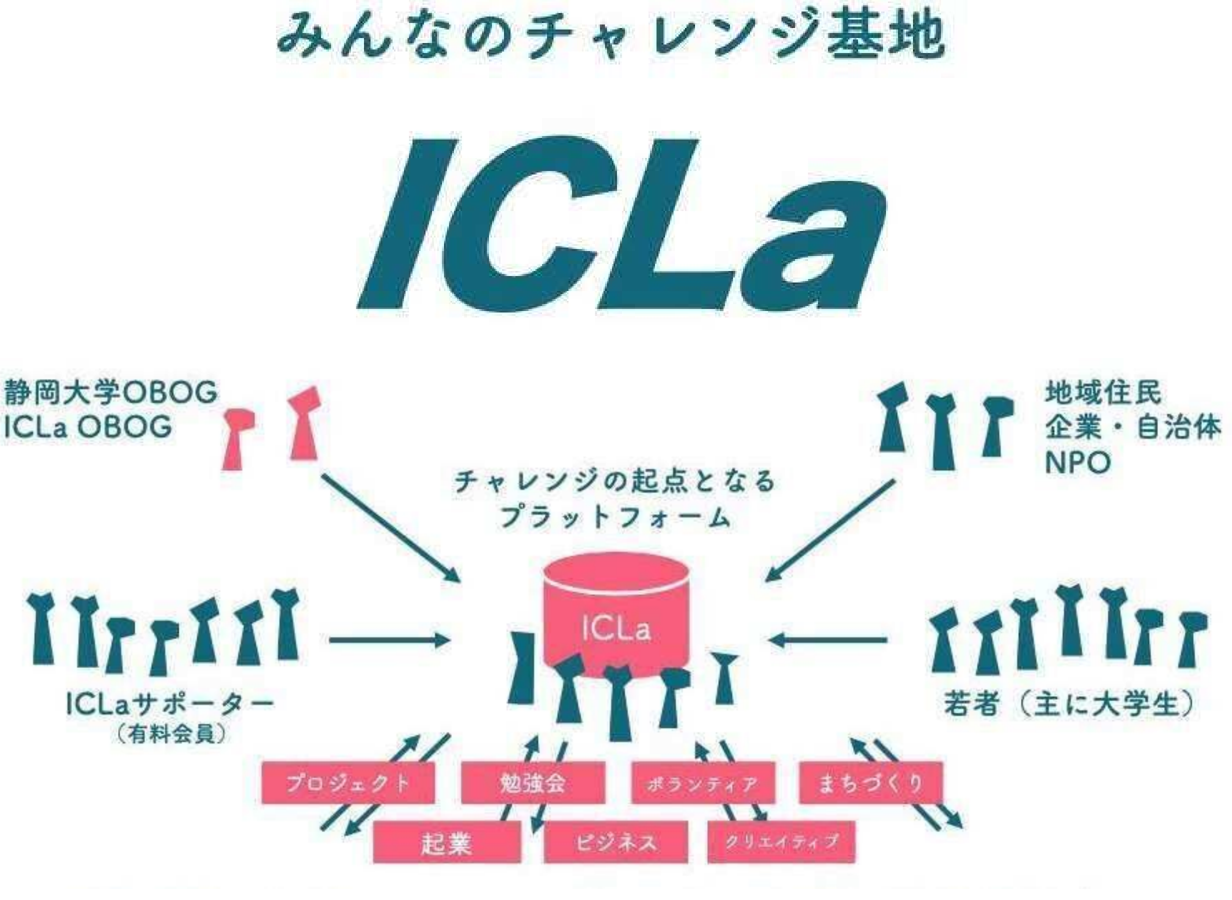
2022年12月8日

みんなのチャレンジ基地ICLaとあむラボがつくりたいチャレンジにやさしい静岡

第3回 大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

小森　史靖

静岡大学人文社会科学部 2年／NPO法人ESUNE　学生ディレクター
みんなのチャレンジ基地 ICLa副センター長／あむラボ代表



NPO法人ESUNE | 人と組織の可能性をひろげ、未来をつくる

多様なアプローチと協力・応援で静岡の未来社会をつくるNPO法人です。

人材コーディネート事業　“志”と“想い”のある人を、組織につなぐ。

首都圏など静岡県外に在住し、働きながらローカルへ関心がある兼業者や、新しいチャレンジの機会を求める大学生を組織につなぎ、事業課題・経営課題に挑戦。事業課題をプロジェクト化し、人とつなぎ、プロジェクト推進を伴走支援しています。

兼業人材コーディネート

静岡県内外在住で、本業があったり、フリーランスで仕事をしている人材を兼業者として参画するプロジェクトコーディネートしています。

学生インターンコーディネート

新しい環境で挑戦したい大学生の中長期（4ヶ月・半年・1年）が取り組むプロジェクトのコーディネートをしています。

教育研修事業　組織の中から“火”を起こす。

複雑で不確実な社会の変化に立ち向かう人材を育むため、経営層・人事の方と共にプログラムの開発・提供を行っています。地域社会の資源・課題と出会い、学ぶプログラムを中心に、大手・中小企業・教育機関と取り組んでいます。

ユースセンター事業　若者の“一歩”を支える。

コロナ禍で思うような一歩を踏み出せない、悩みや希望を抱える若者の一歩を支援する個別相談・伴走支援センターを運営しています。若者発案のプロジェクトを多数サポートし、支援者を増やすための養成講座も運営しています。

みんなのチャレンジ基地ICLaとは？

大学生をはじめとした若者一人一人の、自分らしいチャレンジを後押しする拠点であり、若者が希望を持って社会を冒険していく「基地」をコンセプトとした場です。オープン後はコワーキングスペース機能を有し、学生やサポーターの方々が利用できる場として運営しながら、個別相談、プロジェクトの形成、学生起業・まちづくり活動の促進に取り組みます。

ICLaが目指すビジョン

挑戦と応援が循環する、チャレンジにやさしい静岡

挑戦と応援の循環で、若者・まちの成長を支え続ける

挑戦（チャレンジ）	「今とは異なる世界を知る一歩＝挑戦」と考える。挑戦に大きいも、小さいもなく、その人らしい一歩を、大切にできる社会にしたい。
応援	自分にできることで、誰かの挑戦を後押ししてくれる人が、全国にいて、見守ってくれている社会にしたい。
循環	挑戦者が、別の人の挑戦を引き起こす。応援している人が、別の応援者を呼び起こす。両者が入れ替わって、お互いにまた、挑戦と応援をする。 挑戦と応援が連鎖し、巡る社会にしたい。

あむラボ
AMULABO

小・中学生の「好き」を社会とつなげる

5教科を教えないオーダーメイド体験教室

プロフィール・ご挨拶

【経歴】

静岡高校卒業、静岡大学人文社会科学部経済学科2年(休学中)

NPO法人ESUNE学生ディレクター

トビタテ！留学JAPAN14期生(文部科学省)

次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)修了

あむラボ運営責任者

小森史靖(こもりふみや)

子どもたちからは
「こもりん」と呼ばれています

あむラボは、子どもたちとセカイをチカクする創造的学習者コミュニティ。ここでは、子どもも大学生も地域の大人も親御さんも、みんな同じ学習者・共育者です。
教材はお金・情報・人などぜんぶ地域・社会にあるホンモノ。一人ひとりが好奇心の趣くままいろんな世界へ飛び出し、自分らしいアウトプットをする。自分らしい『物語』を編む。
そんな子どもたちの学び・成長をみんなでオモシロガリながら支え、応援できる拠点を一緒につくっていきましょう！

あむラボメンバー

上木美侑(学生リーダー)

静岡大学 教育学部 3年
日本の次世代リーダー養成塾15期

河崎美保(教育アドバイザー)

静岡大学 教育学部
初等学習開発学専攻 准教授

天野浩史(プログラム監修)

NPO法人ESUNE 共同代表理事
大正大学地域創生学部　助教

など　学生メンター10名以上

あむラボの特徴

個性を伸ばし、好きを夢中で探究できる学びや
好奇心から社会とつながり、安心して挑戦できる
リアルな環境づくりを大切にしています。

①一人ひとりのプロジェクトを推進する1on1の伴走体制

子どもたち一人ひとりの好奇心・モチベーションを引き出し、それに素早く反応してお商売やアート、ものづくり、自由研究などのプロジェクトの立ち上げや推進を大学生が伴走することで、オーダーメイドで社会と直接つながる体験を提供します。

②子どもたちのやりたい！を応援する投資制度

自分のプロジェクトを進める上でお金が必要な場合、プレゼンをして投資を受けることができます。プロジェクトシートを使いながら、子どもたち自身で目的や収支計画を考えて、学生メンターはそのサポートをします。

③地域社会とシンクロした教室 みんなのチャレンジ基地ICLa

「ICLa」は、静岡大学・静岡鉄道・アイザワ証券が連携して今年開設した、若者のチャレンジを促進するための産学連携スペースです。地域の学生や社会人が数多く訪れ、身近な社会に触れ、将来のロールモデルと出会えるかもしれません。

プロジェクト例

ものづくり

ボカロ制作

エレクトーン

ラジコンヘリ

自由研究

1cmの定義

お米ブランド

ルアー釣り

デザイン プログラミング

チラシ制作

トランスフォーマー

環境×ゲーム

プロジェクトの流れ

好奇心からはじまる、実社会とシンクロした学び

1 **企画** → 2 **調査** → 3 **制作** → 4 **発表**

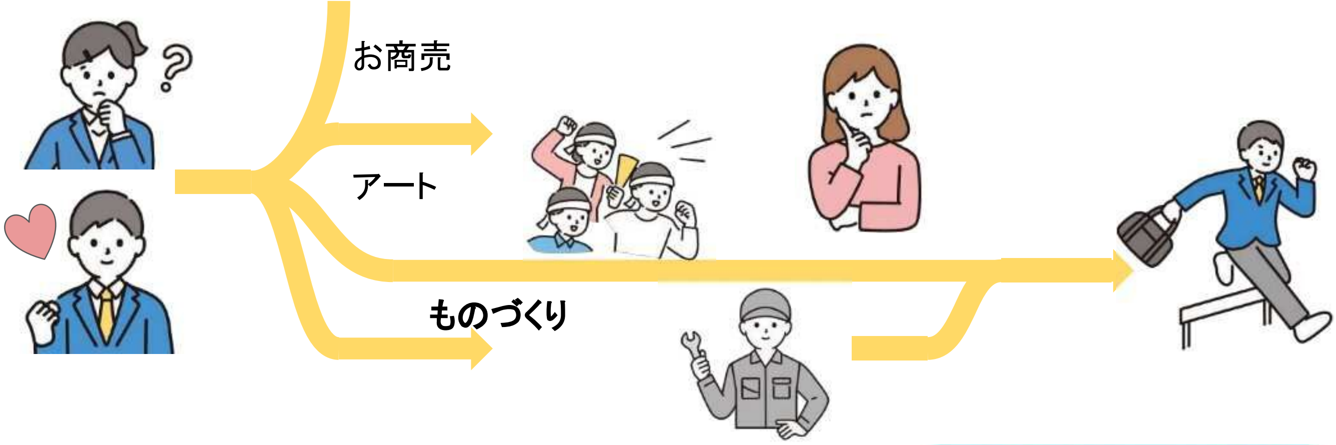
オリジナルのボカロ
をつくってみたい！

楽器屋さんへGO！
プロにインタビュー！

パソコンのソフトで
調べながら実際に制作

クイズ形式で
みんなにお披露目！

“好き”を起点としたプロジェクト型学習(P–PBL)



【「P–PBL」とは？ 】

PBL(プロジェクト型学習※1)に、一人ひとりの興味関心に沿って、プロジェクトを自分のペースで進めるという**「パーソナライズド(P–)」**の要素を追加した**「ルール無用の自由研究」**のようなもの。

※1 自ら課題を発見し、解決する能力を養うことを目的とした教育手法でアクティブラーニングの一つ。アメリカの教育学者であるジョン・デューイ提唱の学習理論。

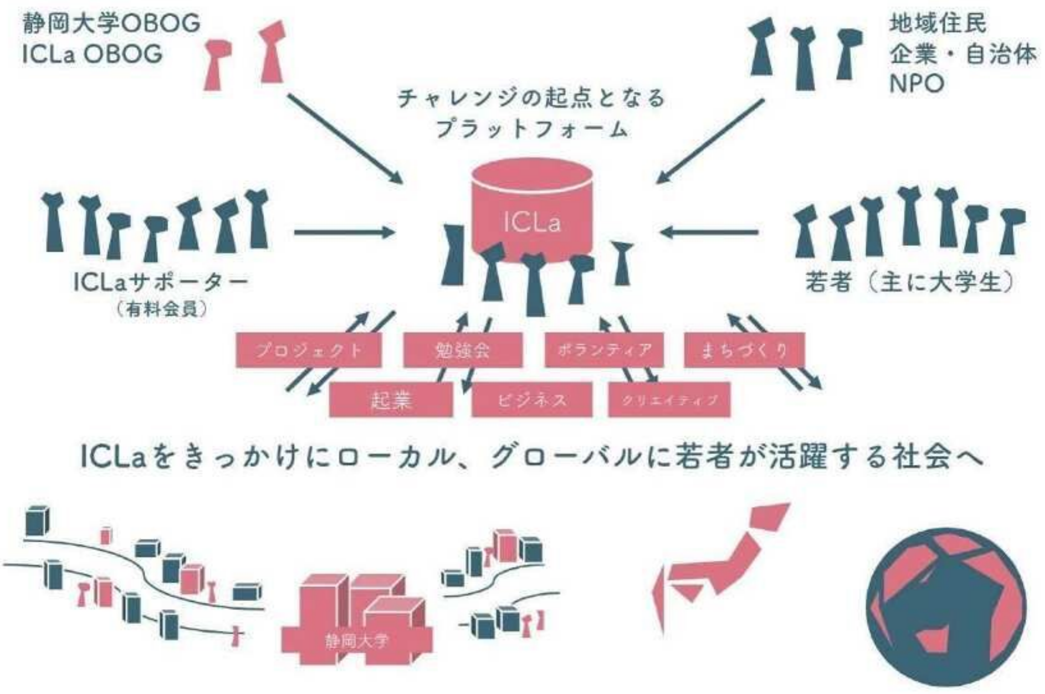
あむラボサポーター(Fun Learners Community)

ファイナンシャルプランナー　花屋さん　大学生　カフェオーナー
まちづくりNPOの代表
銀行員　大工さん　議員　町長　マーケター　エンジニア
大学教授　高校生　デザイナー　公務員　経営コンサルタント
新聞記者　IT企業の社長　投資家

教室：みんなのチャレンジ基地「ICLa」

子どもたちの活動の拠点は、
静岡大学の近くにある、地元企業・団体等が連携して開設した
地域の若者のチャレンジャーが育ち・集うコミュニティスペース

みんなのチャレンジ基地
ICLa



「ICLa」は、静岡大学と静岡鉄道、アイザワ証券、ESUNEが協働で開設する、いろんな大学生や若者、その応援をする信頼できる大人が集まって交流し、多様なチャレンジが生まれる場。10月本オープン予定。

子どもたちがプロジェクトを進めているすぐ隣で、大学生が勉強会をしていたり、自分のことや社会のことを熱く語り合っているような環境。自分が研究している学問や熱中している活動、今起こっている社会の問題や未来について語り合ったり、自分の悩みや人生について赤裸々に話したりするシーンが日常に。そんなリアルな社会に触れ、自分らしい選択肢が広がり、未来のロールモデルと出会えるかもしれません。

静岡市駿河区小鹿二丁目39-15ジェネシス小鹿3F

保護者様の声

「疑問に思ったことを**自分で調べるという力**がつきました。」

「**専門家の方にインタビュー**することができて良い経験になりました。」

「普通では体験できないようなことができ、**子どもの自信**に繋がったと思います！」

「「好き」が「ただの好き」ではなく、**研究の域に入るほど**の内容になり、しかも
「らしさ」が全面に出ていて、親として大変嬉しかったです！」

「息子の**知識や能力を発揮できる機会**を探していて、まさに**ピッタリの学び場**でした！」

「教えてくれる先生」ではなく**「一緒に考えてくれる仲間」のようなお兄さんお姉さん と出会い**、好き全開でプロジェクトができました！」

「正直、娘が**こんな力を持っていたことに驚きました**。学生メンターさんには大変感謝しています。」

「**好きなことだったからこそ**最後まで投げ出さず、**やり遂げられた**と思います！」

これまでの活動・実績

●フリースクール「アトリエあす」にてP-PBLの実践(4月～)

・普段の活動の様子はこちら

https://www.instagram.com/uslabo_shizuoka/

・中日新聞、毎日新聞に掲載

中日新聞：https://www.chunichi.co.jp/article/467855?rct=h_shizuoka

毎日新聞：https://mainichi.jp/articles/20220728/k00/00m/040/049000c

静大生・小森さん 葵区でフリースクール

通えぬ子の居場所へ

自身も経験 アイデア形に

〈プロジェクト例〉

・オリジナルキャラクターのLINEスタンプづくり

・自作PCでマイクラYouTuberへ

・好きな小説のオリジナル表紙づくり

●夏休み自由研究プログラムの実施(7/26-7/31、8/17-20)

・秋スクール開校に向けてパイロット版を実施

・小中学生6名参加

〈自由研究例〉

「1cmという定義はどのようにして生まれたの？」

「トの人気は、日米ランスフォーマーでどう違うの？」

「どうやったらサッカーが上手になるの？」

「大きなパイプオルガンの作り方・組み立て方とは？」

「コンビニのおにぎりの米粒はいくつあるのか？」

「ボーカロイドの声はどうやって作られているのか？」

私たちが描く未来像

あむラボを通じて、私たちは・・・

子どもたちが安心して社会を冒険しながら、

“自分らしさ”や“生き抜く力”を育める静岡

をつくりたい！

教材はお金・情報・人など、ぜんぶ地域・社会にあるホンモノ。
シャカイがアソビバに、ソウゾウしい人が育つ。

地域のあらゆるひと・もの・ことを子どもたちの学びのタネ・冒険のネタに、

好奇心の趣くままいろんな世界へ飛び出し、自分らしい『物語』を編んでいく。

そんな子どもたちの成長をみんなでオモシロガリながら支え、応援できる地域に。